

# ドラマー用の ジャズ用乾燥材

④

ラジオや本でジャズの手ほどきを受けたものの、週一回三十分だけの放送や、本から名前や曲目ばかりをおぼえても満足出来る訳がない。何しろ相手は音楽だからミュージシャンと音が重ならなければ面白くも何ともない。当然レコードをこのことにならぬのだが、今と違って豊富に出まわっているはずもなく、第一、僕自身レコード店に入っ

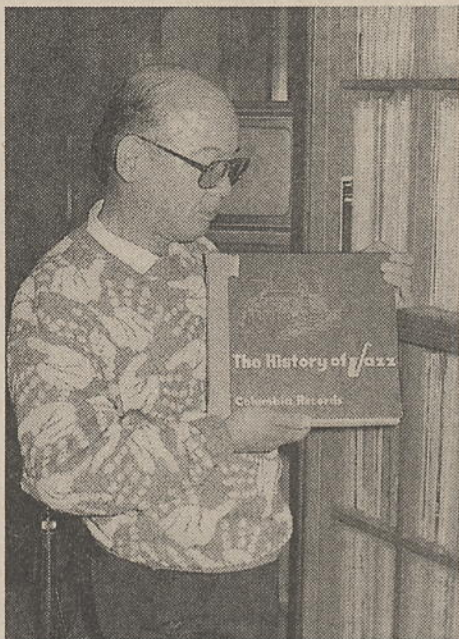
たことさえない。  
ある日、意を決して岡崎の自宅近くの店をこわこわ訪れた。あれこれ見まわす内、何たるラッキース、片隅に「ジャズの歴史」というタイトルのアルバムがあるではないか。もろろん、まだLPなどは生まれしていないころで、あの重いSPで十二枚組の立派なものだった。  
が何しろ値段が当時の若いサラリーマンの一月分の給料ほどでした。学問一筋を求める父に言いたせばどなられ

るに決まっている。そこでオフロに手を合わせて何とか手に入れた。  
後年親しくなった評論家の一人が「僕も欲しくってねえ。結局競馬で一発当てて、どうやら買えたことがあったっけ。懐かしいなあ。」  
機械はなぜか戦災をまぬがれた手まわしポータブルに竹針

という時代もの。だげど当時  
は突発的な停電がしょっちゅうだったから、あれでよかったですかねえ。  
それにしても、それからおよそ一年間、僕のコレクショ

## 基礎培ったSP 12枚組アルバム

だが、ジャズの発展をまことに手際よくまとめたこのアルバムで入門したことは大別されるジャズのスタイル、つまり「フレイクシーランド」に語り合う仲間が欲しかった。  
ある日、名古屋・広小路通の伏見交差点東南かどあたりを歩いていると、何の変哲もないマーケットの奥からジャズの音が流れて来るのに出くわした。近くの白川公園にはまだアメリカ軍のカマボコ型兵舎が並んでいて、街角でGIと呼ばれた兵隊を見かけるのは珍しくもなかったが、引かれて近づくと、何人かの黒人兵たちがリズムに乗った独特のこなしで踊っている。  
不思議な光景だった。思い切って、はたらくらに見えた店員に「今かけてるレコードは新しいジャズですか」と問いかけると、「ええ、これは、ネクラな話題の『ピ・ハイメー』です」と教えてくれた。この若者との偶然の出会いから、初めてのジャズ仲間が生まれ、そしてその輪が次第に広がって行ったのだ。



懐かしそに「ジャズの歴史」のSPレコードを見るドラマー内田

う凝り固まった人が多いんだから(何しろゼンマイ仕掛けなんだ) 停電にもかかわりなく聴いてたからなんだろうねえ。でも、やっぱりとも語り合う仲間が欲しかった。  
ある日、名古屋・広小路通の伏見交差点東南かどあたりを歩いていると、何の変哲もないマーケットの奥からジャズの音が流れて来るのに出くわした。近くの白川公園にはまだアメリカ軍のカマボコ型兵舎が並んでいて、街角でGIと呼ばれた兵隊を見かけるのは珍しくもなかったが、引かれて近づくと、何人かの黒人兵たちがリズムに乗った独特のこなしで踊っている。  
不思議な光景だった。思い切って、はたらくらに見えた店員に「今かけてるレコードは新しいジャズですか」と問いかけると、「ええ、これは、ネクラな話題の『ピ・ハイメー』です」と教えてくれた。この若者との偶然の出会いから、初めてのジャズ仲間が生まれ、そしてその輪が次第に広がって行ったのだ。

(内田 修)